

子育てと教育・福祉の充実をめざします

神戸市議員
(東灘区選出)

やのこうじ

事務所：神戸市東灘区御影中町 2-8-3-207
TEL / FAX 078-841-2255
✉ yano.koji2018@gmail.com
市議員団ホームページ▶ <https://kobe-miraisig.jp/>市議員団
ホームページ

編集・発行：こうべ未来 市議員団 〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 / TEL:078-322-5844 FAX:078-322-6161

令和6年 第2回定例市会【9月議会】開催 日程（9月13日～10月24日）

神戸市会では、令和6年度の神戸市各会計決算や議案について、審議を行っています。

先日の本会議で会派の代表質疑を務め、市長、教育長に対し、以下の内容について質疑を行いました。

今回の質疑内容の早期実現に向けて、みなさまからのお声にも常に寄り添いながら、安全・安心なまち神戸・東灘をめざして、全力でとりくんでまいります。



質疑の様子



代表質疑（9月24日）

1. 敬老・福祉パスの民間バスへの適用について

質問 依然として東灘区の住吉台を走る「くるくるバス」や、森北町を走る「どんぐりバス」など割引適用の対象となっていない。住民の足である民間バスにおいても、敬老・福祉パスの制度適用がなされるべきではないか。**副市長** 交通事業者の理解と協力なくしては成り立たない制度である。対象交通機関の拡大に向け、引き続き交通事業者と協議をしていきたい。

敬老パス



福祉パス

要望 くるくる・どんぐりバス、坂バス（灘区）、みんなのバス（兵庫区）などに、早急な制度適用をお願いしたい。**再質問** 昨今の物価高騰など、運行事業者のこれまで以上に厳しい状況を踏まえると、地域交通に貢献している「くるくるバス」や「どんぐりバス」等の民間バスを神戸市が支えるという観点から、敬老・福祉パスの予算を拡充、もしくは別枠で予算を確保すべきではないか。**副市長** 今後、敬老パスの対象者である高齢者は増加し、社会保障費の増加等への対応などを踏まえつつ、運賃改定後の利用状況等も把握しながら対応を検討していきたい。**要望** 横浜市の調査では、敬老パスの所持者は外出頻度が高く、介護認定を受ける割合も少なく、介護予防などにもつながるとしている。本市でも実現に向けた予算確保をしていただきたい。

2. 高校生等通学定期券の補助制度の対象について

質問 東灘区在住の生徒が芦屋の高校へ出願することは、県立高校の通学区域の制度上、認められている。今後、兵庫県第1学区である市外の高校へ通学する生徒に対しても通学定期の無料化の対象とする意向があるのか。高校生通学定期券の
補助制度**市長** 今後県での検討状況、神戸市の制度の拡充による市内高校受験者数の動向など、神戸市内の教育環境への影響や効果を把握しながら、令和7年度当初予算編成の中で検討したい。

要 望

高校生等通学定期の無料化は、対象学校を高等学校、高等専門学校、中等教育学校、専修学校及び外国人学校としている。そのため、様々な理由により不登校となり、フリースクール等に通学している生徒は補助の対象外となっている。

神戸市として未来を担うことになる人材を分け隔てなく支援するため、フリースクール等に通学している生徒の通学定期についても是非、無料化の対象としていただきたい。

**3. 部活動の地域移行について****質 問**

神戸が進める「KOBE◆KATSU (コベカツ)」が目指す理想の姿と、そこに向かう途中段階での現状課題は。

**教育長**

多様なニーズに応え、少しでも子どもたちがわくわくするような活動にしていきたい。校区を越えた活動場所への移動や、月会費等の家庭負担、活動団体が確保できるのかという大きな課題は抱えているが、できるだけ多くの団体に参加いただけるよう、活動の団体の掘り起こしに努めたい。



[KOBE◆KATSU] (コベカツ)

意 見

今後10年間で1万人の生徒が減少 (中学校25校分) し、教員数も減少する。部活の練習試合の引率の際、会場への交通費は教員の自腹であり、その際に起こるトラブルには責任が発生し、最悪なケースでは、部活動の顧問が懲戒処分の対象ともなりかねない。日々奮闘している教員の自己負担は限界を迎えている。

再質問

中学生の活動・体験・交流の機会の確保に向け、社会全体で取り組む必要がある。そこで、文化スポーツ局等の関係市長部局と教育委員会とが共同で「KOBE◆KATSU」の事務局を設けるなど、両者がともに移行準備を積極的に進めていくべきではないか。

市 長

文化スポーツ局や地域協働局などが中心となり、今までの先生方に変わる指導人材をどう確保していくのか、しっかりと一緒に取り組んでいきたい。



質疑の様子

要 望

今後の部活動の「KOBE◆KATSU」への移行後、各クラブの運営に必要な費用は、原則として各家庭の会費で負担することになる。一方、クラブの所属人数が少ない場合、運営費用を会費だけで賄うことは困難であり、また種目によっては用具を調達するための高額な初期費用を要する場合もある。これらの結果、各家庭の会費が高額となり、KOBE◆KATSUへの参画の妨げとなってしまうことだけは、絶対にあってはならない。中学生の誰もが自らのやりたいことを選択し活動できるよう格別の配慮をしていただきたい。

4. トライやる・ウィーク※について**質 問**

教員の負担軽減のため、トライやる・ウィーク推進協議会を中心に、生徒の受け入れが可能な事業所の検索から受け入れ依頼まで、一貫して調整できるシステムの構築が早急に必要ではないか。

※トライやる・ウィーク…兵庫県内の各市町において、中学2年生を対象にした5日間の職場体験活動

教育長

教職員の負担軽減の観点も十分に踏まえながら、持続可能で時代に合った効果的な取り組みになるよう、兵庫県とも協議しながら検討していきたい。

要 望

机上の学習だけでなく実際に職場体験することは大変貴重である。市内には担い手となる地域団体が少ない地域もある。地域協働局等による学校への支援をお願いしたい。